

---

# TAKASIの物語。

MCおめーもな

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

TAKASIの物語。

### 【著者名】

NE761A

### 【作者名】

MCおめーもな

### 【あらすじ】

オタクたかしの心暖まるお話です。後書きでも文が間違っていますが、たかし君に免じて勘弁してください。はい。

「20円のお返しです。レシートはいりますか？」

「あん？ これらねえよ。」

俺はお釣りだけ受け取り、愛車のギガントダメスティック号（いつたつて普通のモンキー）にまたがり、キーをONにしギアを一速あげ走りだした。

「あの店員絶対俺に惚れたな。」

まずないだろ、ひ。

彼の名前はたかし。年は16で今は高校一年。自称喧嘩番長。

「おひ。女発見！ 俺様の男らしいところを見せ付けてやるか」

俺はモンキーをリズミカルにふかした。

が、ただエンジンの回転数が上がるだけで何が何だかよくわからなく、ただの雑音にしか聞こえなかつた。彼の中では決まつてゐるらしい。

「おいてめえ。何ふかしてんだよ！」ひあ。ひよと降つてや。せひつて

後ろからいかにもつて御方が肩を掴んできた。  
こいつなめてんじゃねえぞ……。

「はっ…はい…。」

俺はすみやかにギガントドメスティック号（いたつて普通のモンキー）をわざに停め、ヤンキー風のにいちゃんについていった。

彼はぞくで言つオタクである。

「てめえよー！何調子こじてふかしてんだよー！喧嘩売つてんのか？」

「この野郎…。喧嘩で俺に勝てると思つてんのか？上等じやねえかよ！ヤン服着りや強いとか思いやがつて。俺のウェッサイな服を見習いやがれ。」

ダイエーで800円で購入したチェックシャツをタイトなズボンにシャツを入れ、（タイトと言つかピチピチ）バンダナを頭に巻き、ズボンから出た白い靴下。（ただ丈が短いだけ。）これが彼が思うウェッサイのスタイルである。

「おーーーー聞いてんのかよーーー？」

「メヘヘ…。」

「…い。」

「あ？ー。」

「勘弁して下せー。」

彼は世間で言つオタクである。

「うつせえぞこの野郎！－オラア－！」

びぐつ！

「…恐い…いやあ恐かねえ。クソがあ…！」

「…あのお、自分塾なのでこの辺で…」

「までやあ。ちつと金貸してくれよ。」

ヤンキーは人差し指と親指をこすり、ニヤつきながら近づいてきた。

いや無理だよ。

「はー…」

俺はポケットに入っている封筒を差し出した。

確か1000円が入つてた気がする。俺優しいなあ。まつ感謝しやがれ！

「おー…なんだよこれ？」

「…間違えた…。あればお気に入りのH口本を切り取つたやつだ…。」

「テメH…！」

バコッ…

殴られ……た？……「うわやあああ……いででででえ！しぬ！しぬ？しぬうう……？痛くなー……フフ……フフハハハハア！きかん……きかんそそんなんパンチわあ……やはり俺は無敵なのだあ……！」

「トキにでりや調子に乗りやがつてよお！？くじえい！」

ペ  
ち

「……んだその赤ちゃんキックは？」

手加減しそぎたかな？……え？顔が痛いよ？……うわやあああ……！  
痛い痛い！

たかしは顔を両手で押され、転がりだした。

「次は腹を蹴つてやるよ。」

ヤンキーは笑いながら少しづつ近づいてくる。

……死ぬ。

「すこいませんでしづく……」

俺は素早く立ち、頭を上げた瞬間ヤンキーの膝がヒットした。

「うわびばせんでじだあ……むぬじでぐだりあい……ねえ？？ゆるじでぐだりいよおお……！」

俺は鼻血を垂らしながら狂ったように頭を何度も下げた。まるで激

しいロックンロール全開な人の様に。

「……はっ。情けねえ奴だな。早く消えな！」

ヤンキーは後ろを向き、歩き始めた。

：キタ

……………どうやら神は俺に勝てと…俺に勝ち組になれと言つているらしく  
いな…。俺の存在はこの世に必要な太陽の様な存在だとなあ！！

俺は地面に調度よく落ちていた鉄パイプの様な物を、ヤンキーを曰がけ出せる力を出し切り投げた。

パイプはヤンキーすれすれを通過し、ヤンキーの前に落ちた。

「おもしれえじゃねえかあ……。」

ヤンキーの目は血走り、完全に怒らせてしまつたらしい。

逝く (。)

どうやら神は俺に逝けと言つてゐるらしい。俺はポツキーで言うとチョコが付いていないあの持つ部分の様な存在らしい。またはポテトチップスの最後の方にあるカスの様な存在だと…

俺は素早くターンをし、走ろうと思つたが、気持ちいいぐらい足が曲がつてはいけない方向へ曲がつてしまつた。

「あはあん！ もおあかーん！」

ヤンキーは少しじづつ、ゆっくりと近づいてくる。

「待てよ…。」

「あ？ 誰に言つてんだテメエ。」

「いいから待てよ…。あんた覚えてるか？あの貧乏ながらも一人でアパートで暮らしていたあの頃を…。私がお腹を空かしてゴキブリを追い掛けていた時、あんたはポケットに入っていた一枚のビスケットを出して俺はいいから食えつて…お前が食べれば俺はお腹いっぱいだつて…優しく笑いながら言つてくれたよね…ねえ？私、嬉しかつたよ？あんたと居れた1年間…幸せだったよ…？…やり直そう？…いーんだよ？…グリーンダコオ！…！」

バキッ…

彼はあの後、一瞬だけだが綺麗なお花畠が見えたらしい…。

誰だつて？

彼の名前はたかし。男の中の男だ。

彼はぞくに言つオタクである。

完…

(後書き)

小説を読んでくれてありがとうございます！MCおめーもなです！  
“俺の物語。”と言う小説も書いているので、それも読んでくれた  
らうれしいです。分はすばらしい程下手だし漢字も間違ってるし間  
違った字なども多々ありますが、がんばって書いたのでがんばって  
読んでもらえたらうれしいです！笑  
では！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7761a/>

---

TAKASIの物語。

2011年1月20日01時04分発行